



	<p>気持ち等を共有してもらいたい、共感してもらいたい、という気持ちを持って(絵)日記を書くことを楽しむことができるようにする。</p>	<p>り添った言語指導を行う。また、良い表現を、他の児童にも共有するようにする。          ②-2 (絵)日記指導についての文献を読み合わせたり、児童の日記を題材に指導方法について検討したりする研修を行う。</p> <p>評価指標</p> <p>①-1 児童全員について、9月末の個別の指導計画前期評価及び後期立案において、アセスメント結果シートの改善案を取り入れた指導の手立てが記入されている。</p> <p>②-1 児童が、2学期末までの1か月間に書いた(絵)日記の8割に、気持ちが表現されている。</p> <p>②-2 2月の学部研修参加者の8割以上が(絵)日記指導の意義についてが感じられるようになっている。</p>		(所見)		
【活動の様子・エピソード等】						

【中学部】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
<p>幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生活指導に取り組みます。 【①】</p>	<p>① 主体的にコミュニケーションをする意欲や態度を育てることができるようにする。</p>	<p>活動計画</p> <p>①-1 コミュニケーション力を身につけるために、生徒同士で説明したり、相談したりしながら進める話し合い活動の機会を学部全体で設定し、指導する。</p> <p>①-2 生徒同士が意欲的にコミュニケーションが図れるよう、休み時間にゲームの実施や、全員が集まれる場所を設定し、教員も共に活動する。</p> <p>評価指標</p> <p>①-1 学期に5回以上話し合い活動を実施し、その中で、異学年の生徒同士が自然に話し合う姿が見られるようになる。</p> <p>①-2 70%以上の生徒が、休み時間に異学年の友達と、ゲーム等をコミュニケーションをしながら楽しむ姿が見られるようになる。</p>	<p>活動計画の実施状況 評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p>		

【活動の様子・エピソード等】
----------------

【高等部】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>幼児児童生徒のライフステージを見据え、個別の教育支援計画や個別の指導計画を関係機関と共有することで、卒業後につながるキャリア教育を推進します。【②】</p>	<p>① 卒業後の社会生活で生かせるコミュニケーション能力を身に付けることができるようにする。</p>	<p><b>活動計画</b>            ①-1 就業体験で体験先の方と、個別の教育支援計画を参考に事前打ち合わせや反省会を行い、支援の在り方を共有する。また、就業体験の評価を指導に繋げる。            ①-2 卒業後の生活を具現化することができるよう、先輩の生活や学習・就労環境等について知る機会を設定する。そして、その中から、一人ひとりに応じた課題を見つけ、指導・支援を行う。</p> <p><b>評価指標</b>            ①-1 就業体験を実施する4名の生徒全員について、得られた成果と課題を基に指導内容を検討し、個別の指導計画に反映させる。            ①-2 全員の生徒に対して、個に応じた機会を設定する。その上で指導・支援を行い、80%以上の生徒から、希望やニーズを、自分自身のことばや表現で引き出すことができる。</p>	<p>活動計画の実施状況 評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p>	

【活動の様子・エピソード等】
----------------

【渉外・安全課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>地域社会と連携した取組や、各学校・園との交流及び共同学習を改めて推進するとともに、聴覚障がい教育への理解・啓発及びその取組発信に努めます。【④】</p>	<p>(渉外) ② PTA活動において、保護者同士のつながりを深め、聴覚障がいへの理解・啓発に努める。</p> <p>(安全) ② 津波一時避難施設・指定避難所及び福祉避難所として、八万地区の地域の方々と連携を図りながら、災害避難時に備えての準備や幼児児童生徒に向けた防災学習を推進する。 ※渉外・安全課における「地域」の対象は、学校所在地近隣である徳島市「八万地区」とする。</p>	<p>活動計画</p> <p>①-1 保護者のニーズに応じたPTA研修会を開催し、保護者同士のつながりを深めると共に、聴覚障がい教育への理解・啓発に努める。</p>	<p>活動計画の実施状況 評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p>	
		<p>評価指標</p> <p>①-1 PTA活動において、保護者研修会を年間2回以上開催する</p> <p>②-1 災害を想定した避難所運営や、幼児児童生徒を対象とした視覚・聴覚合同の防災学習会を年1回以上開催する。また、両校渉外・安全課員と地域の代表の方との連絡交換会を年間2回以上実施する。</p> <p>②-2 服薬している幼児児童生徒について、最新の薬剤情報提供文書を携帯している者の割合が80%以上となる。</p>		<p>(所見)</p>	
<p>【活動の様子・エピソード等】</p>					

【生徒活動課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生活指導に取り組みます。【①】</p> <p>地域社会と連携した取組や各学校・園との交流及び共同学習を改めて推進するとともに、聴覚障がい教育への理解・啓発及びその取組の発信に努めます。【④】</p>	<p>(生徒指導) ① 各学部において、幼児児童生徒の発達や障がい特性を踏まえた交通安全指導の推進に努める。</p> <p>(特別活動) ② 全校行事において、幼児児童生徒の縦のつながりを意識した取組を行い、幼児児童生徒が主体となった行事を実施する。</p> <p>③ 交流及び共同学習を積極的に実施し、その中で個々のニーズに合った取組を推進する。</p>	<p><b>活動計画</b></p> <p>①-1 幼児児童については歩行上の注意点についての理解や、正しい横断歩道の渡り方等を指導する。自転車を多用する児童生徒についてはヘルメットの着用や聴覚障がいの特性上注意すべき点を指導し理解を促す。</p> <p>②-1 企画・準備の際に、中・高等部の生徒が主体的に幼児児童と共に活動できる企画となるように支援する。幼・小学部幼児児童は、活動内容を理解し、意欲的に参加することができるよう支援する。</p> <p>③-1 コロナ禍で縮小していた交流及び共同学習を改めて推進する。</p>	<p>活動計画の実施状況 評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>評価指標</p>	
		<p><b>評価指標</b></p> <p>①-1 各学部で児童生徒に交通安全に関するアンケートを実施し、正しい横断歩道の渡り方の理解や、ヘルメットの着用率が80%以上となる。</p> <p>②-1 中・高等部生徒による企画会議を年間2回以上行い、生徒が企画から運営に関われようとする。また、幼・小学部の幼児児童には行事終了後にアンケートを実施し、行事への満足度が80%以上となる。</p> <p>③-1 各学部において、コロナ禍以前に行っていた交流及び共同学習の再開や、新たな取組について検討を行い、積極的に実施する。</p>			
【活動の様子・エピソード等】					

【人権・キャリア教育課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>幼児児童生徒のライフステージを見据え、個別の教育支援計画や個別の指導計画を関係機関と共有することで、卒業後につながるキャリア教育を推進します。 【②】</p>	<p>(人権教育) ① 幼児児童生徒がより人権問題を意識できるよう、全校で積極的に取り組むことができるような理解・啓発活動を実施する。</p> <p>(キャリア教育) ② 相談支援事業所との連携の強化や、大学等進学希望者に対する進路指導の充実、また、卒業生に対するアフターフォローの推進に努める。</p>	<p><b>活動計画</b></p> <p>①-1 学期毎に教員が人権問題について考える機会を設ける。また、生徒集会等とおして、幼児児童生徒に人権問題の理解・啓発活動を行う。</p> <p>②-1 個別の教育支援計画や個別の指導計画内の必要事項を入力した「実習生プロフィール表」を作成し、相談事業所との事前打合せや反省会で活用する。</p> <p>②-2 幼児児童生徒の居住地の自立支援協議会への出席を通して、相談支援事業所と情報共有を行う。また、進学希望者の進路指導については、高等学校との連携を行い充実を図る。</p> <p>②-3 過去5年間の卒業生について、卒業後の状況について調査を行い、支援を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況 評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <hr/> <p>(所見)</p>	
		<p><b>評価指標</b></p> <p>①-1 それぞれ設定した期間に、人権問題に関する理解・啓発活動を実施し、幼児児童生徒及び教員から、80%以上の満足を得る。</p> <p>②-1 各事業所等より、プロフィール表を活用した打合せ等が「有効だった」との評価を得る。</p> <p>②-2 自立支援協議会への出席及び高等学校と情報共有する会を実施し、その場で得た情報を担当者と共有し、指導に生かす。</p> <p>②-3 過去5年間の卒業生の現状について調査し、必要な場合は、関係機関と連携を取りながら支援を行う。</p>			
<p>【活動の様子・エピソード等】</p>					

【サポート課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>県内唯一の聴覚障がい領域を対象とする特別支援学校として、学校全体で教育相談に対応するとともに、県内の聴覚障がいのある幼児児童生徒や学校・教職員に対する持続可能なセンター的機能の取組を充実します。【③】</p>	<p>① 地域に在籍する聴覚障がい幼児児童生徒に対し専門的な支援をするとともに、その幼児児童生徒の在籍する学校の担当者に聴覚障がい教育に関する相談活動を行う。</p>	<p>活動計画</p> <p>①-1 特別支援教育巡回相談員による教育相談を行う。</p> <p>①-2 本校のサポート体制について連携諸機関に広報する。</p> <p>①-3 夏季補聴相談を実施し、来校した児童生徒に聴力測定や聴き取り検査等を行う。</p> <p>①-4 聴覚障がい教育入門編リーフレットを作成する。</p>	<p>活動計画の実施状況 評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>評価指標</p>	
		<p>評価指標</p> <p>①-1 難聴学級のある小学校および本校通級指導教室に入級している児童の在籍小学校のうちの7割以上の学校に相談活動を行う。</p> <p>①-2 県内の病院や診療所（耳鼻科）、乳幼児健診で訪れた保健センター等（5か所以上）に教育相談のチラシを配付し、本校の支援活動について説明する。</p> <p>①-3 夏季補聴相談に来校した児童生徒の担任の80%以上に、相談児の聴力や聴き取り状況について説明する。</p> <p>①-4 聴覚障がい教育に初めて携わる教員が聴覚障がい児と関わる際に必要な事項を満載したリーフレットを作成する。</p>			
<p>【活動の様子・エピソード等】</p>					

【研究・情報課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生活指導に取り組みます。【①】</p>	<p>(研究) ① わかりやすい保育・授業を行うために、思考ができる保育・授業をするためのチェックシートを用いて授業改善を行う。</p> <p>(情報) ② 教員のICT活用スキルの向上を図り、個々の特性に応じたICT教育を推進する。</p>	<p>活動計画</p> <p>①-1 自分の授業の動画を撮り、授業を振り返る。その際、思考ができる保育・授業をするためのチェックシートで自己チェックを行い、自分の取り組む項目を選び、具体的方策を考える。</p> <p>①-2 実践を行いながら、11月末と2月末に自己チェックを行い、授業を見直す。</p> <p>①-3 公開保育・授業週間での参観にチェックシートを利用する。</p>	<p>活動計画の実施状況 評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p>	
		<p>評価指標</p> <p>①-1 保育・授業や生活指導を行っている教員・寄宿舍指導員全員がチェックを行い、具体的方策を考える。</p> <p>①-2 11月末の自己チェックで、80%以上の教員・寄宿舍指導員で自己チェックの評価が上がる。</p> <p>①-3 公開保育・授業週間の参観時に、チェックシートを利用することが90%以上の教員・寄宿舍指導員でできる。</p> <p>②-1 ICTの利活用に関する研修を年間3回以上実施する。また、研究授業において、ICTを活用した授業を実施したり、障がい特性に応じた活用についての協議を行ったりする。</p>			
<p>【活動の様子・エピソード等】</p>					



【寄宿舍】

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見		
<p>幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生活指導に取り組みます。【①】</p>	<p>寄宿舍での生活や社会で生かせる実践的な活動を通じて、舎生が他者との関わりを肯定的に捉え、自信や意欲に繋がるよう取り組む。</p>	<p><b>活動計画</b></p> <p>①-1 保護者や学級担任と連携し、それぞれの舎生のニーズや課題を把握する。</p> <p>①-2 日常生活場面や寄宿舍行事で、舎生一人ひとりの課題やコミュニケーション能力に応じた手段を用いて、指導や支援を行う。</p> <p>①-3 聴覚障がいに関する職員研修会を計画する。</p>	<p>活動計画の実施状況 評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p>	
		<p><b>評価指標</b></p> <p>①-1 毎学期学校の個人懇談への参加、対面や連絡帳を通じて保護者や学級担任と課題の共通理解を図る。</p> <p>②-1 校内（視覚舎生を含む）や外部の人と関わる活動に取り組んだときに、舎生の様子等のエピソードを記録する。また、舎生が、他者との関わりに肯定的な意識を持つことができたかを、すべての活動後にアンケートや学習シートで確かめる。</p> <p>③ 視聴合同で聞こえに関する研修を1回以上実施する。</p>		<p>(所見)</p>	
<p>【活動の様子・エピソード等】</p>					

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

